



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I  
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakiieigo.com/> e-mail: [info@chigasakiieigo.com](mailto:info@chigasakiieigo.com)

11月3日に協力校全国大会が開催されました。参加校は14校（協力校主宰者13名）でしたが、前半はセミナー形式での講演、後半はクラスのすすめ方、教室運営についてなどの意見交換と、充実した全国大会になりました。講演者、参加者の方々から当日の感想をお寄せいただきましたので、皆様にお伝えたく、臨時増刊号を発行することにいたしました。今後も一層充実した全国大会にする所存でおります。次回はより多くの方にご参加いただきたいとの願いをこめて臨時号をお送りいたします。

## 講演1 「コミュニティカレッジで茅ヶ崎を教える—中京大学での8年半」

名古屋緑校 久富 奈保子

1990年代より主に私立大学を中心に増えている大学の社会人講座。少子化社会を大学が生き抜くため、また社会貢献の一環として始められたものですが、「学びたい」という社会人のニーズと合致し定着してきています。



名古屋の中京大学オープンカレッジで茅ヶ崎の講座を始めて8年半。現在C1、C2の2講座を開講しています。名古屋の各大学も様々な社会人講座を開講し、中京大学でも20以上の英語講座がある中で、8年半継続できたのは、「リスニングと語彙力の強化」に特化し、他の講座と差別化ができたおかげです。高い内容を提供できたためだと思われまます。

一方で、名古屋市のみならず周辺地域からも受講生のいるオープンカレッジの講座に名を連ねることで、茅ヶ崎方式をより多くの皆さんに知っていただく手立てにもなっています。

当初のなかなか受講生が定着しないという問題も、8年半を経て現在は受講生の8割がリピーターとなってきました。茅ヶ崎方式が根付いてきたように感じています。

### ・協力校全国大会について

ワークショップ型の北川先生の講演では、皆熱くなって音読ゲームを楽しみ、午後の懇親会では教材や教室運営について、これまでになく率直な皆さんの意見が伺えて大変参考になりました。2次会も含めて実りの多い1日でした。

## 講演2 「英語音読マラソンとクラス0」

寝屋川校 北川 孝子

- ・「英語音読マラソン」とは？（2001年9月スタートのサークル）
- ・目的、理念（音読の継続と英語学習者の交流）
- ・活動（音読回数、年1回スピーチコンテスト開催、HPに掲載）
- ・今までに音読してきたテキストの紹介

- ・シニア教材としての C0 テキストが良いと思う点
- ・英語音読マラソンメソッドで音読を体験してもらい、学習効果を検証  
(ペンシルリーディング、エコー、first 2words、英日、日英、timed reading、  
ペア1文交替、グループ競争、立って回転しながら、最高速シャドーイング、various narrators)
- ・その他の楽しい音読バリエーション  
(コピーイング、タイムアタック、英語落語)



## 感想

茅ヶ崎全国協力校大会で「英語音読マラソン」を紹介させていただいて光栄でした。盛りだくさん音読方法など内容を詰め込み過ぎたために時間切れとなり、きっちりまとめができなくて、申し訳ありませんでした。あのような機会を与えていただいて感謝しています。ありがとうございました。

## 「経営」と書いて「孤独」と読む！

雑感、「協力校全国大会」に参加して

大阪難波校 笹山 陽久

年の瀬も迫った11月、毎年恒例の東京詣で。97年に教室を開いてからずっとお愉しみの「祭事」である。

闇夜で目隠しの状態から始めた「教室経営」は、不安、苛立ち、焦燥、強迫観念等で独り悶々と過ごした6ヶ月、溜息混じりの初参加は実に新鮮であった！全国に同じ志を持った仲間が、同じような悩みを抱えながらも、日々努力している姿に、「負けるものか！」と闘争心を煽られて、あと1年、もう1年と騙し騙しに突っ走って来て、気が付けば14の年輪を重ねていた。過ぎ去れば呆気ない程の短さ、早さであった。

「全国大会」では、各校の様々な事例、例えば「教材」の有効利用、授業の進め方、会員増のための広報活動等が発表、話し合われたり、教材作成者の秘話、裏話が暴露されたり、或いは各教室の主宰者との「交流」の場でもある。

その際の些細な事例やさりげない一言が、実は「飛躍」へのヒントや示唆に富んでいることが多々ある。「目から鱗」或いは「反面教師」として随分と試させて貰いました。

2010年も、「大学のオープン・カレッジ」での8年に及ぶ「茅ヶ崎方式」の「布教」活動や、「音読マラソン」の導入例について2校の主宰者の発表があった。とりわけ、「音読10パターン」は参加者全員が実際に「ゲーム」に直接参加することで、「講義」にありがちな単調さ、退屈さ、睡魔から解放され、「視聴者参加番組」のノリの良さ、面白さであっという間に時間超過！

「音読」の効用は今更ここで言及するまでもなくご存じのことでしょうが、時間の制約のある授業では、「音読をやって下さい！」とは言うものの、実施となると会員任せの「他人事」が現実でした。

翌日の授業から早速、寸暇を割いて「音読」の布教に精を出しています。リピーティングやリプロダクションを絡めて様々なバリエーションがまだまだ考えられそうです。

「芸は身を助ける」そうですが、「芸」はそもそも人から盗む物、盗んだ者が勝ち！

そんな訳で、2011年の「協力校会議」、今度は何を盗もうかと虎視眈々、「石川五右衛門」の心境で日々の「孤独」を肴に「経営」に喝！を入れています。



## 2010年茅ヶ崎英語会協力校全国大会に参加して

太田校(学習会) 野村 春雄

協力校全国大会は、一昨年に続き、2度目の参加でした。前回の内容が、凡そ本部からの連絡、新事業紹介、協力校間の情報交換が主であったように記憶していましたので、会員の皆さんから選ばれた会の代表としての義務感から参加しました。しかし、今回は、従来の内容以外に協力校主宰者お二人の講演を拝聴することができ、その内容が後述のように大変中身の濃い、示唆に富むものだったこと、また、それに関連した午後の意見交換会も非常に活発で内容豊かなものだったため、わざわざ一日費やし交通費をかけて参加して良かった、甲斐があった、と実感しました。

同時に今回の講演で学べたような実践活動、指導のノウハウは多くの協力校主宰者の皆さんが持ち合わせておられるのではないかと拝察し、それらを自分のところだけに内蔵しておくことなく、多くの主宰者で共有し合えれば、お互いの知識・情報・技術の向上に資することができ、茅ヶ崎英語会全体の発展につながるものと確信しました。それを次回からの大会にも期待します。

講演の一つ、名古屋緑校の久富奈保子氏による、「コミュニティ・カレッジで茅ヶ崎を教える」—中京大学での8年半—は、同氏が、同大学が主催するオープンカレッジで茅ヶ崎方式英語学習指導を実践してこられた経験の報告でした。私立大学の、採算がとれることを要求される事業の中で、茅ヶ崎方式協力校が授業(事業)展開をするという新しい試みであり、そこでの経験から学べるノウハウはメリット、デメリットを含め、他では得られない貴重なものでした。茅ヶ崎方式英語会、協力校にとって、新たな可能性を見いだせる分野のように思えました。

もう一方の講演、大阪寝屋川校の北川孝子氏による「英語音読マラソンとクラス0」—シニア向け教材としてのクラス0—では、多種(10種類)の英語音読練習法を提示紹介、出席者が生徒として体験しました。どの方法にも意図があり、効果も確認され、楽しく集中して取り組めるものでした。中学や高校の英語教師を対象とした研修会等でも取り上げられることがあります。これだけ多くの種類の方法を一度に、しかも短時間に、整理し、纏めて解説、実践するのは空前絶後でしょう。その方法については講師の北川氏から別稿で皆さんにご提示いただけると有難いと思います。それでも私たち出席者が体験して学べたものには及ばないでしょうから、それは出席者のみが享受できた特典ということで、感謝です。「シニア教材としてのクラス0」はご高齢の生徒さんの実例をもとにしたお話で、教える者にも学ぶ者にも励みとなるものでした。また、北川氏による英語落語「Gold Coin and Pissing : 野村命名」は玄人跣で、すっかり楽しまされました。いつか使わせてもらおうと思っています。

大会終了後の2次会は本格的中華料理と美酒を楽しみながらも、話は英語学習や英語会運営にかかわる真剣な熱を帯びたものになり、延々と続けました。

テーマからは外れますが、大会の前日、11月2日、太田校では大美賀代表にお願いし、「茅ヶ崎方式英語会が目標とするもの」「茅ヶ崎方式英語学習者へのアドバイス」のテーマで講演会を開催しました。代表は、脳科学から認知症、外国語(学習)と第2言語(習得)とのちがひ、英語力向上のキーポイント、茅ヶ崎方式英語のエッセンス等、深く広い造詣と蘊蓄、それと豊かな経験に基づいた話をしてくださり、太田校会員一同、目から鱗の落ちる思いを何度も経験し、深く感銘しました。講演の後の食事会の最中も落ち着いて食べて頂けないほど質問が後を絶ちませんでした。多くの協力校で大美賀代表に更にご活躍の機会をお作り頂くことをお勧めします。

## 協力校全国大会に参加して

西宮北口昭和町校 天満 嗣雄

茅ヶ崎方式の協力校全国大会に参加した。これは大英断だった。西宮に教室をもち、宝塚に住む私にとって、東京での集まりに参加するのはそう簡単なことではない。しかし、今回は友人で寝屋川校主宰の北川さんがプレゼンを行う。ぜひ、聴きたい。そこで、前日から東京に入り、新宿で発音セミナーを開催するという仕事と抱き合わせて参加することにした。

結果。大正解。色々な経験を持つ協力校主宰者とお話することが出来、多くのアイデアを頂いたのもさることながら、やはり一番は北川さんのプレゼン内容に学ぶことが多かったことだ。

茅ヶ崎方式と音読というのは、あまりなじまない。というか、茅ヶ崎方式学習法の本流からは外れている。でも、大切だと思うし私も自分の授業で取り入れている。

北川さんからは、私がやっている方法とは随分違う方法を教えてもらった。色々な工夫がしてある。概要は以前からお聞きしていたが、実際にデモンストレーションをしてもらい、自分自身も生徒役で参加するワークショップ形式のプレゼンで練習を体験することで、大きな発見があった。

早速、翌週からの授業に一部取り入れさせてもらった。茅ヶ崎方式の授業でも使えるが、現時点で私が一番重宝しているのは、企業研修で行っている TOEIC クラスにおいてである。

企業研修では「英語が嫌い」という受講者も珍しくなく、当然、「音読はしたくない」というスタンスの方もいる。そういう彼らでも楽しみながら音読練習が出来る方法を体験させてもらい、実際に使えるというのは非常に有難い。

1泊してまで東京に行った甲斐があった。当日ご参加の皆さん、北川さん有難うございました。そしてこの企画を実現して下さった英語会の皆さん、感謝します。

今後の全国大会その他の集まりにおいても、こうした実践を紹介し合える時間が持てることを期待したい。

## 協力校全国大会に参加して

所沢校 長尾 京子

久しぶりの集いに参加できてうれしく思います。内容も、いろいろ楽しいイベントがあり充実していたと思います。特に、名古屋緑校の久富奈保子さんと寝屋川校の北川孝子さんのプレゼンテーションはすばらしかったと思います。また、午後から他の協力校の方々との意見交換もあり大変参考になりました。以下にそれぞれについて感想を簡単に述べたいと思います。

### 1. 名古屋緑校の久富奈保子さんのプレゼンテーションについて

中京大学のコミュニティカレッジについてのお話は、プレゼンのスキルの高さもそうですが、内容も「なるほどそういう方法もあったのか」と感心すると同時にとても興味深かったです。また、8年半も継続されていることを聞いて、久富さんの熱意と才能によるところは大きいと思いますが、茅ヶ崎方式が良いことの証だと、勇気づけられました。

### 2. 寝屋川校の北川孝子さんのプレゼンテーションについて

参加者全員参加型のプレゼンは、最初少しとまどいましたが、とても楽しかったです。「英語音読マラソン」の趣旨通りのプレゼンだったと感心しました。「音読」の重要性については全く同感であり認識はしていたつもりでしたが、今回の北川さんの様々な具体的な実践方法を知り驚きました。大変勉強になりました。落語も面白かったです。

### 3. 意見交換について

自己紹介をかねてそれぞれの協力校の皆さんからいろいろなご意見を聞くことができたことは良かったと思います。いかに生徒数を増やすことができるかという点については、どの協力校も大なり小なり同じような悩みと苦労があるのだなあと思いました。今後とも、協力校が情報を共有し相互の成長のために連携を一層強化できればすばらしいと感じました。

♪ 全国大会には、お忙しい中、遠方よりお集まりいただき有難うございました。爽り多い会となり、講演くださった久富さん、北川さん、ご参加いただいた皆様に感謝いたします。